

SHIRAKOBATO

しらこぼと



1995. 10

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 138

日本野鳥の会 埼玉県支部

図鑑を持ってフィールドに出よう!

自然観察をしながら野山などを歩く場合、無くてはならない物が、携帯に便利な大きさのフィールド用図鑑です。フィールドでは樹、草花、鳥の3種類位は必要で、昆虫、獣などがあればほぼ万全の備えです。

1. 熟練度に応じた図鑑を

フィールド用図鑑には熟練度により入門用、一般向け、専門家向けなどがあります。入門用とは普通によく見られる種のみ扱った物で、解説も専門用語を使わない配慮がされています。一般向けとは、特殊な種を除いて日本で見られるほとんどの物が一通り載っており専門用語で書かれ分布図と検索表があります。専門家向けはその分野についての専門的知識が豊富でなければ使いこなせません。

2. 全国版と地方版

波照間島から宗谷岬まで南北3000kmに及ぶ日本では、植物や昆虫の種数は4桁になります。3桁の鳥とは異なり、とうてい一冊のフィールド用図鑑では納め切れません。全国版として刊行されている植物や昆虫のフィールド用図鑑のほとんどは本州、それも関東や関西で見られる種を中心とした構成で、それらを北海道や沖縄へ持参してもほとんど役立ちません。そこで必要となるが県単位又は富士山とか北アルプスなどの地域単位の図鑑です。地方版の図鑑には一般的な説明ばかりでなく、種の地域的な特長が詳しく書かれており、全国版の図鑑には見られない情報がつま



表1 図鑑の表現

	絵	写真
長所	細部まで表現できる。	生息、生育環境がわかる。
短所	実感が伝わりにくく、デフォルメされてしまう。	影や向きで細部までわからない。

Step1	入門用全国版の図鑑。
Step2	一般向け全国版の図鑑（分布図と検索表が付いているもの）
Step3	地方版の図鑑。
Step4	専門家向けの図鑑。

図1 フィールド用図鑑と熟練度

っています。地方版の図鑑は、地方新聞社、大学出版会などから出版されています。大きな書店や地元の書店にはたいてい置いてあります。

3. 図鑑の表現

図鑑には写真図鑑と線画又はカラーの絵図鑑があります。最近は写真図鑑が多く写真の方がよいと思われがちですが、それぞれ長短があり（表1）、一概には言えません。ていねいに描かれた絵は写真よりも生態表現ですぐれています。

4. フィールド用図鑑の選択ポイント

フィールド用図鑑の選択は入門用から順にステップ・アップしてゆく事をおすすめします（図1）。ただし、専門家向けの図鑑はよほどの事がない限りフィールドで使用する機会は少なく、通常、一般向け全国版、フィールドによっては地方版を携帯すれば充分です。植物及び動物についてのフィールド用図

表2 フィールド用図鑑の選択ポイント

対象	コメント
草花	1. 野草と高山植物は普通、別の図鑑。 2. 花の色で索引する図鑑が実用的。 3. シダ類、イネ科、カヤツリグサ科など、特定の対象は、通巻構成の野草図鑑の分冊使用が便利。
樹	1. 花は一時期のみのため、春から秋は「葉と樹皮」、冬は「冬芽と樹皮」で索引できる図鑑を。 2. 本州用と北海道用は、常緑広葉樹の有無のため別図鑑。
きのこ	森林の種構成により大きく変わるので、地方版の図鑑の方が実用的。
チョウ	フィールドでの飛行の軌跡、見え方が書かれている図鑑が便利。
昆虫	種類が余りにも多いので、庭・畑、野山などフィールド別に、又はトンボ類、セミ類など分野別の図鑑が便利。
鳥	種数が少ないため全国版の図鑑で識別は充分。ただし、シギ・チドリ類、カモメ類の見分けは専門図鑑が必要。
獣	姿を目撃する事は難しいため、フィールド・サイン（食事跡など）、アニマル・トラック（足跡など）の図鑑が必要。

鑑を選ぶポイントを表2に示しました。

5. フィールドに行く前に

入手したばかりの図鑑をすぐフィールドに持ち込んでも、どこに何が書いてあるのかわからず役立ちません。新しく入手した図鑑はフィールドに行く前に、少なくとも2時間位かけて、何がどの順序で書かれてあるのかと検索の方法について調べて下さい。その後、自分なりの記号を使って観察場所にあったマークをそれぞれの種につけて下さい。私の場合、フィールドは北海道ですので、樹の図鑑では本州又は海外から導入されたカラマツやストロブマツなどの種については×マークをつけ自生種とすぐ区別ができる様になっています。

6. おわりに

野山を歩くときには、自らの興味と熟練度に応じ、読みこなし書き込みをしたフィールド用図鑑をたずさえ、新しい発見を目指して下さい。よいフィールド用図鑑との出会いは、フィールドにおける全く新しい見方を導き出してくれます。 (小荷田行男)



〈参考〉入門用図鑑

草花：畔上能力 1987 野草ウォッチング アウトドア・シリーズ125 日本交通公社出版事業局 東京

樹：関東で使える入門用図鑑はない。一般用として。尼川大録、長田武正 1988 検索入門樹木1, 2 保育社 大阪

チョウ：日高敏隆、藤井恒、海野和男、今森光彦 1984 フィールド図鑑チョウ 東海大学出版会 東京 (一般用として使用可)

昆虫：中山周平 1976 庭・畑の昆虫 一昆虫 I—自然観察と生態シリーズ1 小学館 東京

中山周平 1978 野山の昆虫—昆虫II—自然観察と生態シリーズ2 小学館 東京

けもの：今泉忠明、高崎有起 1986 アニマルトラック・ハンドブック 自由国民社

鳥：高野伸二 1983 バードウォッチング 自然観察シリーズII 小学館 東京

県内新記録2種

日本野鳥の会埼玉県支部野鳥記録委員会

●シロハラクイナ（ツル目クイナ科）

『BIRDER』誌（東京都・文一総合出版）本年5月号65ページに、1994年11月23日、埼玉県日高市栗坪巾着田天神橋付近で、東京都練馬区の大谷正光氏が撮影したシロハラクイナ1羽の写真が掲載されたので、県内鳥類リストに記録します。

シロハラクイナは中国南部・台湾・フィリピン・インドシナ・インドなどに留鳥として分布。日本では南西諸島で普通に見られ、分布を拡大する傾向にある（中村一恵、1987）そうですが、埼玉県内では今まで確認記録はありません。（290種目）

●コシジロアジサシ（チドリ目カモメ科）

やはり『BIRDER』誌の本年8月号48ページに、1995年5月21日、本庄市利根川で、群馬県伊勢崎市の小茂田英彦氏が撮影したコシジロアジサシ1羽の写真が掲載されたので、これも県内鳥類リストに記録します。

コシジロアジサシは、アジサシ類の中では珍しく北方系で、シベリア東部沿岸やアリューシャン列島・アラスカ沿岸で繁殖し、冬もあまり南下しない分布の狭い鳥です。生息地に由来して、英名は Aleutian Tern といい、東日本でまれに観察されていますが、埼玉県内では今まで記録はありません。（291種目）

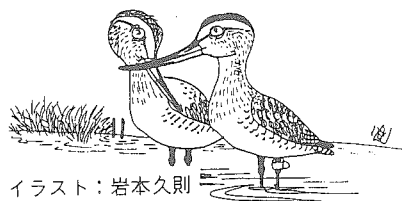
WANTED!! フラッグ付きのシギ・チドリ類

オーストラリア、ニュージーランド、日本で、シギ・チドリ類にフラッグを付けて、渡りのルート調査中です。

フラッグというのは、イラスト右の鳥の左足についているもの。カラーテープの一端を旗のように飛び出させた足輪で、通常の足輪の5倍の発見率があり、色が地域によって決まっているので、その鳥がどこから渡ってきたか、その場でも分かります。

見つけた方は、発見者名・連絡先・観察日時・場所・種名・数・フラッグの色と位置・写真の有無・分かれば成幼夏羽冬羽の別など

を、270-11我孫子市高野山115、山階鳥類研究所標識研究室、茂田良光（FAX 0471-82-4342）、または、105 港区芝3-1-14日本生命赤羽橋ビル6階、WWF自然保護室、花輪伸一（FAX 03-3769-1717）まで、郵便またはFAXで御連絡ください。



イラスト：岩本久則

表 フラッグの色の割り当てと主なシギ・チドリの種

地域	フラッグの色	フラッグ放鳥した主な種	
ビクトリア州	オレンジ	キョウジョシギ、ウズラシギ、ミユビシギ、コオバシギ、サルハマシギ、トウネン、ツバメチドリ、オオソリハシシギ、アオアシシギ	
ウェスタンオーストラリア州北部	黄	キョウジョシギ、ウズラシギ、コオバシギ、サルハマシギ、トウネン、オバシギ、オオメダイチドリ、メダイチドリ、キアシシギ、キリアイ、オオソリハシシギ、オグロシギ、ダイゼン、ソリハシシギ	
クイーンズランド州	緑	コオバシギ、サルハマシギ、オバシギ、オオソリハシシギ、ホウロクシギ、チュウシャクシギ、キアシシギ	
ニューサウスウェルズ州	白	メダイチドリ、ムナグロ、アオアシシギ、コアオアシシギ	
ニュージーランド	白	コオバシギ、オオソリハシシギ	
日本	北海道風通湖周辺	青	キアシシギ、トウネン、ハマシギ、メダイチドリ
	千葉県小櫃川河口	薄紫・茶	トウネン、キアシシギ、ソリハシシギ、ハマシギ、メダイチドリ

'94年まで

●メディアフェスティバル作品募集中

主催 (財)埼玉県県民活動総合センター
埼玉県視聴覚放送研究団体連絡協議会
後援 埼玉県、NHK浦和放送局ほか
協賛 ソニー、ビクターほか
応募資格 埼玉県内在住・在勤・通学・活動
している個人・団体
受付期間 平成8年1月5日～31日
送り先 362伊奈町小針内宿1600 (財)埼玉県
県民活動総合センター 視聴覚課内「彩の
国 いきいきメディアフェスティバル」ビ
デオ交流祭係、または視聴覚メディア教材
コンクール係 宛。
問い合わせと応募票請求先 048-728-7111内
線701～705
[いきいきビデオ交流祭の部]
県民活動及び生涯学習の充実を図るために
制作されたビデオ作品(ボランティア団体の
活動をPRする作品、活動への参加を呼びか
ける作品、など) VHS, S-VHS, VHS-C, S-VHS-C,
8mm, Hi-8で15分以内
[視聴覚メディア教材コンクールの部]

学校教育、社会教育のための視聴覚メ
ディア教材・ビデオ、スライドなど20分以内

●サンクスネイチャー長期講座開催中

安西英明 バードウォッチング講座
内山春雄 バードカービング講座
叶内拓哉 野鳥フォト講座
水谷高英 ワイルドライフアート講座
多彩な内容で、それぞれ4回から10回の講
座が、第1期から第2期、第3期と、次々開
かれています。
主催 (財)日本野鳥の会企画事業センター
受講料 ウォッチング講座の会員10,000円か
らカービング講座の会員30,000円までいろ
いろ。ほかに2年間有効の登録料3,000円
と、消費税、材料費などが必要です。
問い合わせ電話 03-5701-6400 担当: 原田
会場 152目黒区自由が丘2-3-12 自由が丘サ
ンクスネイチャー3階
申し込み 同所の2階 日本野鳥の会バード
ショップカウンターまたは電話で(水曜定
休)

白頭鷲の英名講座・第13回

サシバ Gray-faced Buzzard-Eagle

いよいよタカの渡りのシーズンです。その
主役はなんといっても数の多いサシバでしょ
う。「サシバ」とはなんと難解な名でしょう。
おそらくバードウォッチャーでも最初は戸惑
ったことでしょう。一般の人達は恐らく「差
し歯」を連想するでしょう。ワープロでも「さ
しば」を漢字転換すると「差し歯」が一番に出
てきます。

英名ではGray-faced Buzzard-Eagle、
即ちGray-faced、Gray(灰色)の顔をした
Buzzard-Eagle サシバ属の鳥ということにな
ります。BuzzardとEagleをばらばらに離し
てしまうと、それぞれノスリとワシになって
しまいますので、Buzzard-Eagle=サシバ属
としてとらえることがポイントです。本によ
ってはGrayとGreyの違いがでてきますが
Grayはアメリカ式、Greyはイギリス式のスペ
リングです。

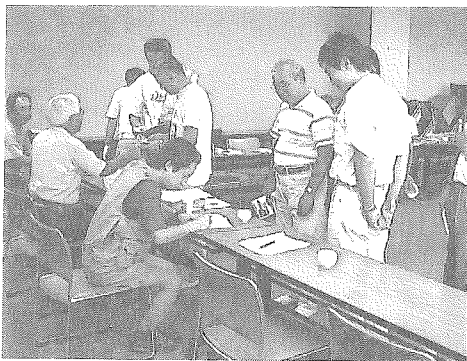
Gray-faced Buzzard-Eagleは余りにも長い
ので、伊良湖岬などの観察の現場では混同の
無いかぎり、省略してGray-facedだけでカウ
ントしているようです。

「サシバもう10羽!」と言うとき、"10 more
Gray-faced!"で十分判るのです。この省略
はちょうどハシブトガラスを「ブト」、ハシボ
ソガラスを「ボソ」と言うようなものです。

最近、文一総合出版よりでた「日本のワシタ
カ類」ではサシバをGrey-Faced Buzzardと
しており、Buzzard-Eagleの扱いをしており
ません。著者の意向の中にBuzzard(ノスリ)
の一種としてのウエイトが大きかったのだし
ょうか。機会があったら質してみたいもので
す。

10月は大いにGray-faced Buzzard-Eagle
を求めて空を見上げましょう。

- ヨシゴイ ◇7月22日、大宮市深作の深作川遊水池で若鳥1羽(玉井正晴)。◇8月13日、浦和市塚本の久保農耕地B地区奥のアシ原で老若男女多数がウロウロ(海老原美夫)。
- タマシギ ◇7月22日、大宮市深作の休耕田で♀1羽(玉井正晴)。
- ムナグロ ◇7月30日、蓮田市黒浜沼南側の田んぼで若鳥1羽(中島康夫)。◇8月13日、大宮市島根で6羽(海老原美夫)。
- クサシギ ◇8月13日、戸田市重瀬彩湖ほとりの水たまりで1羽(海老原美夫)。
- アカゲラ ◇8月11日、大滝村の三峰神社で♀1羽(上野恵美子)。
- ヒヨドリ ◇8月23日、川口市の自宅前の電線にとまっているセミをさっとくわえて、口をバクバクッとさせながら、あんなに大きいのをあつという間に食べてしまいました(赤い実とリンゴが好きなのだと思っていましたが・・・)。途中、口から一度落としましたが、すぐ空中でサッと受け、



(第12回リーダー研修会より)

- くわえ直したのには感心しました。セミの羽根が一枚下に落ちていたのがあわれでした(出戸真佐子)。
- ヤマガラ ◇8月11日、大滝村の三峰神社で1羽(上野英士郎)。
- ゴジュウカラ ◇8月11日、大滝村の妙法ヶ岳付近で1羽。幹にそって上に下に歩いていました(上野越郎)。
- キバシリ ◇8月11日、大滝村の三峰神社で1羽(上野倫郎)。
- ウソ ◇8月11日、大滝村の三峰神社でカラ類混群中に♂1羽(上野越郎)。
- コムクドリ ◇8月31日、JR武蔵野線東浦和駅近くのアパート5階の目の前の電線上のムクドリ18羽の群れの中に♀1羽(新堂克浩)。

野鳥情報を送ってください

野鳥情報のページは、会員の皆さんから送られてくる情報によって成り立っています。常連さんも新人さんもどンドンお寄せください。希少種に限らず、その場所では珍しいものやその時期には珍しいもの、あるいは、珍しくはないけれども季節感にあふれた情報(初認等)やちょっと変わった行動など、いろいろな情報をお待ちしています。明らかに間違いと思われるものは別にして、原則としてお寄せ頂いた情報はそのまま掲載します。ただし、ご本人が確信がもてない場合や、珍しい種類で、その裏付けがはっきりしないときなどは「?」マークをつけさせてもらうこともあります。珍しい種類の場合は、できるだけ写真や観察結果なども一緒にお送りください。

野鳥情報は、はがき、手紙、ファックスなどでお寄せいただくと助かります。ボランティアの手数を減らすことにご協力ください。

表紙の写真

『気ままにバードウォッチング』掲載作品

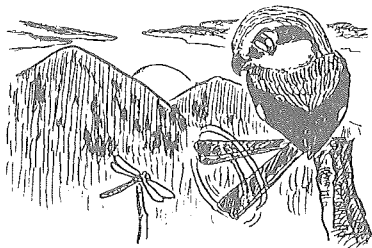
ヤマセミ (カワセミ科)

5月の初旬、高麗川でヤマセミの求愛給餌を観察した。6月には幼鳥に会えると期待して、再びその地を訪れた。親鳥だけだった。巣穴を作ったが、最初の巣は放棄し、2回目、3回目は、それぞれ開発のために破壊さ

れたとのこと。残念!!

人家に近い場所での生息の困難さを目の当たりにして、来年は、さ来年はと、その生息環境の悪化に思いを馳せ、何もできない己に自問自答した。 小出 博(鶴ヶ島市)

行事あんない



(渡辺 敦)

特別な場合を除いて予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章をした担当者に遠慮なく声をおかけください。私達もあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費は一般100円。会員と中学生以下50円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡など。解散時刻は、特に記載のない場合、正午から午後1時頃。小雨決行です。

自然保護のため、できるだけ電車バスなどをご利用のうえ、指定の集合場所までおいでください。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：10月8日(日)

集合：午前9時30分 秩父鉄道大麻生駅前

交通：秩父鉄道熊谷9:11発、または寄居9:03発に乘車

担当：菱沼(一)、森本、小池、田口、菱沼(洋)、斎藤、中島(章)、和田、石井(博)

見どころ：この月が一番にぎやかでおもしろい時期かも。昨年はヒタキ三兄弟に、ノビタキ、ツツドリ、ハヤブサ、ウズラと多彩でした。頑張るおじさんたちのバードソングチームが合流します。

浦和市・バードソン応援三室探鳥会

期日：10月8日(日)

集合：午後2時 浦和市立郷土博物館前

交通：北浦和駅東口から「市立病院」行きバスで終点下車

担当：福井、中島(康)

見どころ：疲れたおじさんたちの慰労をかねた打ち上げ探鳥会です。クイズ大会(賞品あり)やオークションも開催します。賞品となるご不要の品々寄贈熱烈大歓迎！乞願当日持参。

北川辺町・渡良瀬遊水地探鳥会

期日：10月10日(火・祝)

集合：午前9時10分 東武日光線柳生駅前

交通：JR宇都宮線大宮8:01→栗橋8:30、東武日光線乗換8:52→柳生9:02

解散：午後2時ごろ

担当：中島(康)、五十嵐、入山、篠原(五)、内田

見どころ：体育の日にちなんで遊水地の中を約8Km歩く、ウォーキング探鳥会！天空にミサゴやチュウヒ、草原にノビタキなどを探します。お弁当、水筒などをお忘れなく。

浦和市・三室地区定例探鳥会

期日：10月15日(日)

集合：午前8時15分 京浜東北線北浦和駅東口(集合後、バスで現地へ)または、午前9時、浦和市立郷土博物館前

後援：浦和市立郷土博物館

担当：楠見、福井、渡辺(周)、手塚、笠原、伊藤、若林、岡部、倉林、嶋田、兼元

見どころ：1週前のバードソン1995のゴールとなった三室、その余韻と熱気のためか鳥鳥鳥のオンパレード！嘘か真か、みんなおじさん達の責任さ！

長野県・戸隠飯綱高原探鳥会(要予約)

期日：10月21日(土)～22日(日)

定員に達しましたので締切りました。

蓮田市・黒浜沼探鳥会

期日：10月22日(日)

集合：午前8時45分 JR宇都宮線蓮田駅東口バス停前、集合後バスで現地へ

担当：中島(康)、吉安、浅田、入山、玉

井、中村(栄)

見どころ：いつまでも守って行きたい黒浜沼の環境。特別に遠出はしなくても身近にある探鳥地です。冬鳥達が来ています。シメ・ツグミ・ジョウビタキ、田圃にシギ・チドリ・サギの仲間、沼にはカモの仲間と、楽しい探鳥会になりますヨ。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：10月28日(土)午後1時～2時ごろ
会場：支部事務局108号室

野鳥写真クラブ定例会

とき：10月28日(土)午後2時ごろ～5時
会場：『しらこぼと』袋づめの会と同じ。

春日部市 内牧公園探鳥会

期日：10月29日(日)
集合：午前8時15分 東武伊勢崎線春日部駅西口、東武バス1番バス停前(集合後バスで現地へ。8:28発→東光園下車)または、午前9時15分 アスレチック公園前駐車場
担当：石川、篠原(東)、吉安、入山、橋口、中村(栄)
見どころ：そろそろ冬鳥達も里にくる頃。都会に近い公園だけど、まだまだ残る雑木林をゆっくり散策しながらカラ類などの小鳥達を観察しましょう。

行田市・さきたま古墳公園探鳥会

期日：10月29日(日)
集合：午前9時30分 県立さきたま資料館前レストハウス
交通：JR高崎線吹上駅北口より、東武バス、行田車庫(佐間経由)行き8:55発に乗車、「産業道路」下車 徒歩15分
担当：内藤、岡安、榎本、石井(博)、和田、吉原、立岩
見どころ：日に日に深まる秋に古墳の池もカモ達で賑わいを見せています。前玉神社の雑木林や墳丘の樹林に姿を見せる冬の小鳥達を観察します。意外な鳥の

出現でおどろかされるさきたま古墳です。さあ全員集合!

川越市・西川越探鳥会

期日：10月29日(日)
集合：午前9時 JR川越線西川越駅前
交通：JR川越線大宮8:34発に乗車、川越乗換
担当：佐久間、長谷部、石井(幸)、三田、池永、小野、山本、藤掛、中村(祐)
見どころ：秋も深まった入間川に、ススキの穂波とお化粧直しのカモ達を見ながらゆっくり歩きます。定番のカワセミはもちろん、オオジュリンもいてくれるかな。楽しみ方いろいろですヨ。

上尾市・丸山公園探鳥会

期日：11月3日(金・祝)
集合：午前7時30分 丸山公園北口駐車場
交通：JR高崎線上尾駅西口4番バス乗場より、西上尾車庫(畔吉経由)7:07発に乗車、「前原」下車 徒歩10分
解散：午前11時ごろ
担当：乗田、吉原、阿久沢、浅見、丹、永野(安)、永野(京)、川那部、宇原
見どころ：また秋の早朝探鳥会が巡ってきました。今年も冬鳥達との再会が楽しみです。公園の朝は空気がうまい。さあ早起きして連休ごろ寝にサヨウナラ。

富士見市・柳瀬川探鳥会

期日：11月3日(金・祝)
集合：午前9時 東武東上線柳瀬川駅前
担当：佐久間、石井(幸)、下川、村上、中村(治)、中村(祐)、神場、遠藤、志村
見どころ：いつまでも飛来してほしい田園の貴公子タゲリ、今年もきっと来てくれます。この願いを込めて歩きます。都市化したけど自然はまだ残っています。

長野県・白馬高原探鳥会(要予約)

期日：11月4日(土)～5日(日)
集合：午前10時 JR長野駅改札口前、または

午前11時、JR大糸線白馬駅改札口前、集合後両駅とも現地までバス送迎。

費用：10,000円の予定（1泊3食、参加費、保険料など）。ほかに集合駅までの交通費は各自負担。

定員：20名（先着順、当支部会員優先）

申し込み：往復葉書に住所、氏名、年齢、性別、電話番号、集合駅を明記の上、町田好一郎

まで。参加決定者には詳しい案内を送付致します。

担当：町田、岡安、小池、兼元、内藤

見どころ：冬の訪れ間近の白馬連峰。猿倉林道や落倉自然園の散策、山小屋『にはめの一步』からの観察もグー。アフターは鳥談義、ビデオ観賞も良し、さらに秘湯訪問と多彩。出演鳥はアトリ・マミチャジナイ・マヒワ・カヤクグリ等とこれまたご機嫌ですぞ。

注意：宿泊は男女別の相部屋です。個室のご用意はできません。

栃木県 奥日光探鳥会(日帰り・要予約)

期日：11月11日(土)

集合：東武日光駅前（詳細は参加者に通知）

定員：20名（支部会員・初心者の方優先）

申し込み：往復葉書に住所・氏名・電話番号明記の上、中島康夫（

まで。

解散：午後3時ごろ、現地にて

担当：中島（康）、松井、福井

見どころ：葉が散って静けさを取りもどした戦場ヶ原、赤沼から湯滝へと約5Km歩きます。ゴジュウカラ、キバシリ、カワガラス、キツツキの仲間を探します。

新潟県・佐潟 福島潟探鳥会(要予約)

期日：11月25日(土)～26日(日)

集合：午前7時 JR大宮駅新幹線改札口前集合後、新幹線利用にて新潟へ

費用：12,000円の予定（宿泊費、懇親会費、現地での交通費、保険料など）。ほかに現地迄の交通費は各自負担

定員：15名（先着順・当支部会員優先）

申し込み：通常葉書に住所、氏名、年齢、性別、電話番号を明記の上、中島康夫 参

加者には詳細の案内を送付致します。

担当：中島（康）、楠見

見どころ：ヒシクイやオオハクチョウが集う湖沼を巡ります。冬の荒海が眼前に広がる宿からの海鳥の観察。越の国ならではの海の幸、山の幸も盛り沢山！

注意：宿泊は男女別の相部屋です。個室のご用意はできません。



行事あんないのカット

渡辺 敦 (名古屋市)

さぼってました行事案内のカット、ようやく新作が完成しましたので送ります。編集子から「元気かどうか不安……」とお葉書をいただきましたが、大丈夫です。ただ暑さが少しくつかっただけです。でも暑かったですね、名古屋は37度以下（最高気温）になった日が8月では1日間だけでした。熱帯夜は30日以上、ウーン、バテました……。

さて、カットですが「秋は夕暮」なんて感じで考えてみました。赤トンボを晩メシにしようと思いが尾羽でクルクルと……果たして彼は食事にありつけたでしょうか。

ではまた 次号まで……

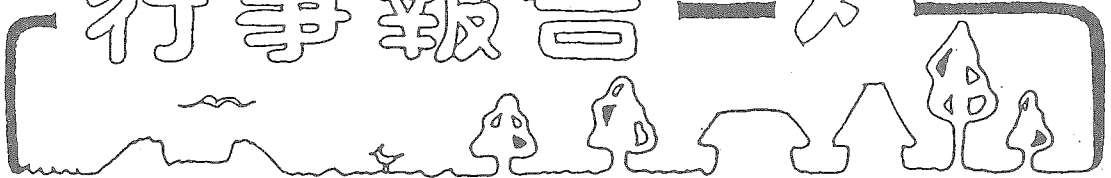
追伸：来月からちゃんと描きます。（……あまり本気にしないで下さい。ほら昔から便りが無いのは良い知らせって。）



初めてカササギを見ました。
もちろんカサは立っていません……

押川歳子 (福岡市)

行事報告



6月18日(日) 浦和市 三室地区

参加: 54人 天気: 曇

カワウ カルガモ キジ バン キジバト カッコウ コゲラ ヒバリ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ウグイス オオヨシキリ セッカ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (26種) 梅雨の合間の探鳥会だったが、カルガモの親子連れも何組が見られて全員感激。今年は、見沼たんぼでは、ウグイスがよく出現。きれいな囀りを聞かせてくれる。この日も電線に止まって大サービスしてくれた。(楠見邦博)

6月18日(日) 坂戸市 高麗川

参加: 46人 天気: 曇

カイツブリ コサギ マガモ カルガモ コジュケイ キジ バン イカルチドリ キジバト カワセミ コゲラ ツバメ コシアカツバメ イワツバメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ウグイス セッカ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (30種) スタートしてすぐに居残り組のマガモが上空を飛び、まだいたの?と唖然。子育ての時季なのか餌を巣に運ぶ鳥の姿が多く見られる。川が増水していて、コース途中の城山橋下の道が通れず、全員川から離れて回り道。期待のヤマセミは姿を見せず、ザンネン。(石井幸男)

6月24日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア: 17人

荒木恒夫、石井幸男、岩上照代、江波功、海老原教子、海老原美夫、尾崎甲四郎、門谷直樹、北川慎一、倉林宗太郎、佐藤信治、篠原東彦、中村榮男、松元達夫、安原久子、谷津弘子、渡辺喜八郎

7月1日(土) 上尾市 八枝神社

参加: 29人 天気: 晴

アオバズク(1種)バスに乗って、ひっそりとした神社を訪ねる。早く着いたので暑い日差しの中で、荒川の流れを見たり、トンボやチョウを追ってみたり。夕暮れが近づき、鳥仲間が三々五々集まってくる。1羽のアオバズクを中心として、こんなに話が弾み、瞳を輝かす、楽しい集いが有るって不思議。アオバズクが今年も無事子育てをして、来年も帰ってくることを祈る。(楠見邦博)

7月1~2日(土~日) 富士山五合目周辺

参加: 24人 天気: 曇

トビ キジバト カッコウ ヨタカ アマツバメ アカゲラ コゲラ イワツバメ キセキレイ ビンズイ ヒヨドリ ミソサザイ カヤクグリ コルリ ルリビタキ ウグイス メボソムシクイ センダイムシクイ キクイタダキ キビタキ エナガ コガラ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ ゴジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ ウソ ムクドリ カケス オナガ ホシガラス ハシブトガラス (35種) 大宮駅では雨。河口湖、スバルラインと高度を上げるにつれて、時々薄日がさす天気に回復。ガレ場では全員がカモシカを観察。奥庭荘の水場はやや淋しかったが、ホシガラス、ルリビタキ、キクイタダキ、ウソ、メボソムシクイなどの常連が出現。夜の懇親会も賑やかにすんで、2日目は、船津胎内のフィールドミュージアムで解散。バス停への移動中コルリが出現して締めくくってくれた。(新堂克浩)

7月9日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 35人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ゴイサギ ササゴイ ダイサギ コサギ カルガモ コジュケイ キジ バン イソシギ キジバト カッコウ アマツバメ コゲラ ヒバリ ツバメ イワツバメ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ウグイス オオヨシキリ セッカ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (32種) 梅雨だが、まずまずの好

天。その代わり、どっと汗が吹き出す。参加者を待っているとハヤブサが上空を飛ぶが、開始前で参考記録。土手に上がると、電線でホオジロが囀っていた。梢で餌を探すのに一生懸命なコゲラもゆっくり観察。土手にはヤブカンゾウとアザミが咲きそろい、時折風にゆれる。畑でオスのキジの姿を久しぶりに見た。明戸堰は増水していたが、お目当てのササゴイがゴイサギと一緒にいて、識別の勉強ができた。(菱沼一充)

7月16日(日) 浦和市 三室地区

参加: 44人 天気: 曇

カイツブリ カワウ カルガモ アオサギ コジュケイ キジ バン キジバト カッコウ コゲラ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ウグイス オオヨシキリ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (25種) 先月に続いてウグイスが姿を見せ、囀りを聞かせてくれた。パソコンネットワークのニフティーサーブの鳥仲間が、神奈川、東京、千葉からやってきた。鳥はスタンダードだが、見沼たんぼの緑の空間が、人々を引き寄せるようだ。バードソンのおじさんたちがPRのためにやってきた。今年のバードソンは期待できそうだ。(楠見邦博)

7月23日(日) 狭山市 入間川

参加: 24人 天気: 晴

ゴイサギ ササゴイ チュウサギ コサギ カルガモ イソシギ キジバト ツバメ イワツバメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ コヨシキリ セッカ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ イカル スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス (23種) 暑い!いきなりやってきた真夏に体がついていかない。予想どおり鳥は少なく、汗をふきふき鳥探し。所々に咲くヤブカンゾウに暑さを忘れる。ほんの一瞬。木陰で休むゴイサギの若鳥数羽を見つけた。鳥だって暑いだろうな。ササゴイの魚取りを見ていると、思わず川に飛び込んでしまいそう。(長谷部謙二)

7月29日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア: 21人

荒木恒夫、石井幸男、岩上照代、岩波勇一、内田孝男、内田竜太、海老原教子、海老原美夫、大坂幸男、尾崎甲四郎、倉林宗太郎、佐久間博文、佐

藤信治、篠原東彦、中村榮男、藤掛保司、藤野富代、松井昭吾、水嶋滋、谷津弘子、渡辺喜八郎

8月13日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 34人 天気: 曇時々晴

カイツブリ カワウ ゴイサギ ササゴイ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ トビ チョウゲンボウ コジュケイ キジ バン イカルチドリ ムナグロ キアシシギ イソシギ キジバト カッコウ カワセミ コゲラ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ セッカ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (33種) ゴルフ場の芝生の上でヒバリとムクドリが採餌している。ムクドリは幼鳥が多く、なんとなくほほえましい。日差しの暑さを避けて林に入ると、ハグロトンボがゆらゆらと飛んでいた。明戸堰は水が少なくなって、多くの鳥たちが集まっていた。サギは5種、秋の渡りの先陣のキアシシギ、ムナグロもいて、参加した人も報われた。(菱沼一充)

8月26日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア: 23人

荒木恒夫、有山智樹、石井幸男、岩上照代、岩波勇一、江波功、海老原教子、海老原美夫、大坂幸男、尾崎甲四郎、兼元義裕、河辺昌治、佐久間博文、桜庭勇、篠原東彦、新堂克浩、墨江光子、高松格、中島康夫、藤野富代、安原久子、谷津弘子、渡辺喜八郎

9月2日(土) 千葉県習志野市 谷津干潟

参加: 59人 天気: 晴

ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ オナガ カルガモ スズガモ コチドリ シロチドリ メダイチドリ オオメダイチドリ ムナグロ ダイゼン キョウジョシギ トウネン ハマシギ オバシギ ミユビシギ エリマキシギ キリアイ アオアシシギ キアシシギ イソシギ ソリハシシギ オグロシギ オオソリハシシギ ダイシャクシギ ホウロクシギ チュウシャクシギ セイタカシギ ウミネコ コアジサシ キジバト ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ セッカ メジロ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス (41種) シギ・チドリだけで23種!残暑の中での秋の渡り。埋立に反対しなければ、住宅地になっていた谷津干潟です。(杉本秀樹)

連絡帳

●バードソン黒田会長チームもよろしく
いよいよ本番バードソン。支部公式チーム「リブラン・リフレッシュ彩のくに」を応援してください。(詳しくは9月号)

毎年恒例黒田会長の特別チームも参加します。支部からは海老原副支部長が出向く予定ですが、どなたでも参加できます。どうぞ気軽ににお出かけください。

集合 10月8日(日)午前9時 明治神宮南参道鳥居下(原宿駅の側です。代々木駅の方ではありませんので、ご注意ください。原宿駅参道方面出口または地下鉄千代田線明治神宮前駅から徒歩1分)

予定 9時30分にバードソン開始、12時終了解散。希望者はJRを利用して南平台の本部事務局に移動して午後2時まで昼食・休憩。その後バスを利用して自由が丘のバードショップもご案内。

参加者 黒田長久会長、本部スタッフ、関東ブロック各支部の代表者と会員たち

●住所の変更などの手続きは

当支部の会員名簿は、すべて本部のコンピューターに登録して整理しています。毎月お送りしている『しらこぼと』の宛名ラベルも本部のコンピューターでプリントアウトしています。ですから、住所の変更などは、本部の会員室の方にご連絡ください。支部事務局へのご連絡は必要ありません。

(財)日本野鳥の会会員室(150 渋谷区南平台15-8 ウッディ南平台ビル2階 直通電話03-3463-8842)

なお、5月から6月にかけて本部会員室スタッフの異動・退職・事故による休職などがあいつぎ、事務処理の遅れやミス、電話対応の不手際などが続きましたが、ようやくスタッフの補充も進んだので、今後は迅速で安定した対応を目指したいと、おわびの手紙が届きました。支部の担当者も本部に行き、電話対応などについての確認、宛名ラベルミスのコンピューター点検などをすませました。

●ナショナル ジオグラフィック 写真展
11月8日(水)～14日(火)、高島屋大宮店(048-643-1111)で開かれます。

入場料一般 500円、大・高生 400円、中・小生 300円(消費税込み)のところ、無料で入場できる特別招待券を、探鳥会などでただいま配布しています。

●10月の土曜日当番(2時～6時)

7日 中島康夫 楠見邦博(普及部会議)

14日 山部直喜 海老原美夫(編集会議)

21日 藤原佳子 町田好一郎(校正の日)

28日 袋つめの会(1時から)

●会員数は

9月1日現在 2,692人です。

活動報告

7月31日 バードソン葉書同封につき、3種郵便物発送条件を郵便局と打ち合わせ(事務局)。

8月5日 普及部会議(行事予定など)。

8月12日 パネル展会場について、アズ熊谷と打ち合わせ(事務局)。

8月12日 9月号編集作業。

8月19日 9月号校正(海老原美夫、工藤洋三、新堂克浩、中村榮男)。

8月20日 役員会議(司会:岡安征也、各部の報告・支部探鳥会規定改正案・パネル展と探鳥会予定・リーダー研修会実施内容・その他)。

編集後記

先日長滞で遊んでいたとき、「早く来て！」という妻の叫び声。驚いて駆けつけると、イソギが手の中にいて、その足には大きな重りの付いた釣り糸の針が刺さっていました。急いで外してやりましたが、釣り糸を捨てていった釣り人のマナーの悪さには怒りました。(森本)

『しらこぼと』1995年10月号(第138号) 定価 100円(会員の購読料は会費に含まれます)
発行人 松井昭吾 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460
〒336 浦和市岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号 郵便振替 00190-3-121130
印刷 関東図書株式会社 (本誌掲載記事の無断転載はかたくお断わりします)

再生紙使用